

村、即本居の地也、此處に今も甚目といふ尾張醫師甚目連公冬雄等、同族十六人賜姓高尾張宿禰家三家あるは、即この同族の氏人なり。尾張照彥天明櫛玉饒速日尊、亦名天火明命、實は天火明命なるを、饒速日命の亦の名として、天孫火明命之後也と見えたるにてあきらけし、扱尾張氏の世系は、舊事紀天孫本紀に、始祖を天照國照彥天明櫛玉饒速日尊、亦名天火明命、其子天香語山命、其子天村雲命、亦名天五多底、其子天忍人命、其子天戸米命、其子建宇那比命、其子建諸隅命、其子倭得玉彥命、亦名市大稻日命、其子弟彥命、其子淡夜別命、其子乎止與命、國造本紀に、尾張國造は、志賀高穴穗朝、以天別天火明命、十世孫小止與命、定賜國造と見え、亦天孫本紀に、この命の條下に、尾張大印岐女子、眞敷刀俣爲妻、生一男、名も此命也、式帳に見え、亦命に、この命や、尾張の國に、此氏人の住しは、いへり、又美夜受比賣命は、この命の御むすめ也、其子建稻種命、此命の御名は、古事記に、建伊那陀宿禰とあり、駿河の海にて身まかり玉ひき、其子尻調根命、子の命の尻調二字を、舊事紀に、尻調、または尾網ともかける、尾張式内神社考證等には、古事記傳及桂野册都紀斗賣と見え、姓氏錄に、若犬養宿禰、火明命、十六世孫、尻調根命之後也とあり、尾張國の女、志理つめ、其子尾治弟彥連、其子尾治金連など、已下繼々に皆尾治某連とあり、綴子麻呂、牛麻呂など、尾治連、尾治といふ文字用は、當また尻調根命の條に、品太天皇御世、賜尾張連姓とあれば、始め乎止與命も、國造の如くにて、尾張に住るが、今すこし已前なりむとおもふ、よして尾張に下り住しは、此命よ、又日本武尊の下來坐し、時に、既に此國に、この氏人の有つるを思ひて、國造に任せられしこと、志賀高穴穗朝とあるは、時代たがへりと、古事記傳に、言たれど、必國造に任せられしこと、國に下るには、あらず、もとより、此國人居の、其國人を、其國造に任せ玉へるぞ、大方の例なる、されば乎止、其孫尻調根命に至りて、尾張連といふ姓を玉ひし也、かくて乎止與命の子孫、世々繼々に廣がりて、國造及郡司、大領、小領などにもなりて、國中諸郷に住り、島馬場などいふ家も、並此尾張氏也、其住處の明に物に見えたるは、熱田縁起に、日本武尊云々、到尾張國愛智郡時、稻種公啓曰、當郡水上邑有桑梓之地、伏請大王稅駕息之とある、水上、今高村郡是なり、をはじめ、中島郡小塞村、今葉栗郡なる、尾關に、月内掃部正外從五位下小塞宿禰弓張海部郡甚目など、其餘も猶あるべし、また山田郡小針、春日に、尾張姓を賜へる事、綴紀に見えたり。